



冬の朝（甲佐大橋）

うたごよみ 〱 如月 〱

〔短歌〕

米納三雄選

新しき年のカレンダーに早々と予定書き込み
今年が始まる 吉永由紀子
庭先に菜の花一本咲きており師走の風に耐え
ているのか 上村やす美
隣室の夫の続く咳止めば元の静けさ老い深
みつつ 内山タミエ
愛したる子猫年の瀬に旅立てり悲しみこらえ
来る年を待つ 緒方 明美
窓の鳴る音いつまでも止まずして冷たき雨は
窓を曇らす 赤星 延子
携帯を開けばじっと「ヨン様」が私を見てい
て心がさわぐ 塚原 暁益
木枯らしは驟雨のごとき音立てて銀杏紅葉を
吹き散らしゆく 本田富美子
人住まぬ庭の山茶花咲き満ちて我が世とばか
り香を漂わす 松本ぬい子
「また来るね」と小さき手を振り幼児は何度
も振り向き廊下去り行く 森田 房恵
それぞれの癖ある文字の賀状読む書きたる友
の笑顔浮かべて 内田乃武子
お遊戯会の園児ら可愛ゆく元気よくハンカチ
出して吾は目を拭く 井上ユリ子
昨夜の雨やみて木枯らし吹く庭の梅が枝飛び
交うつがいの鶴 上村 かず
アルバムの鉢巻き絞めし学童は「滅私報国」
われの昭和史 渡辺 幸士

〔川柳〕

〔初詣で〕

美しい国を念じて初詣で
神殿に柏手の音こだまする 北 仁子
初詣で賽銭箱まで遠過ぎる 林 雅之
初詣で病むな転ぶな九十路 内村 邦炎
御神籤に幸運祈り手を合わせ 伊豆野ヤエ
布田 愛子
狒犬さんにも新年のご挨拶 丸岡はる子

〔笑う〕

手を叩き孫のしぐさに大笑い 道上キヌ子
お年玉孫の笑顔が花咲かせ 緒方 瑞枝
抱いた児の頬落ちそうな笑い声 成松 松枝
独り居て笑う門には福来たる 楠井かをる
テレビ寄席居間のこたつで初笑い 古閑チヨミ
玄関に作り笑いの人が来る 渡辺 幸士

〔俳句〕

恙なく卒寿を生きて年迎う 本田 信子
咳一つして朝の厨事 堀田 孝恵
思い出の残るマフラー色褪せず 高田れい子
柚子風呂にひたりて長寿願いけり 古田 幸子
今朝の冬数歩の散歩息らず 楠本 美鶴
山眠り石白眠る生家かな 田端 慶子

■お問い合わせ先 町教育委員会公民館事務局
☎096・234・1111（内線321）

ひとの動き (敬称略)

12月11日(土)~1月10日(月)

birth お誕生おめでとう

住所	氏名	性別	保護者
府領	野原明日未	女	直幸
中横	本田愛加里	女	隆一
府領	本田倉珠	女	修一
下横	藤岡音蓮	男	寿健
仁田	塚原滯	女	太郎

marriage ご結婚おめでとう

住所	氏名
〔夫〕	糸田本郷雄大
〔妻〕	熊本市中村亜理沙
〔夫〕	熊本市小佐井直也
〔妻〕	早川山本久美子
〔夫〕	熊本市豊永泰士
〔妻〕	麻生原徳満朋美
〔夫〕	田口成田充瑠
〔妻〕	田口上田真実
〔夫〕	豊内渡邊徹
〔妻〕	熊本市福島未悠
〔夫〕	上早川田上雅士
〔妻〕	熊本市吉村みさと
〔夫〕	熊本市永田有毅
〔妻〕	津志田村上さとみ
〔夫〕	中横田丸山敬裕
〔妻〕	美里町西島三代

condolence お悔やみ申し上げます

住所	氏名	年齢	世帯主
府領	舛永工ミ子	85	照男
府領	長野龍美	70	龍美
小鹿	渡辺十一	79	十子
田口	宮西強	76	敦子
早川	山田愛子	80	愛子
大町	松永夕マ子	86	守子
中横	中村晃	57	みどり
下横	桑田フサヲ	95	フサヲ
仁田	西本一義	97	一之
白旗	緒方イキ工	84	イキ工
岩下	田上睦子	99	睦子

Data 甲佐町の人口・世帯数

項目	数	増減
男	5,403	△3
女	6,131	△1
計	11,534	△4
世帯数	4,177	△2

平成22年12月31日現在

〔町史編さんだより〕

正月に自宅で、映画「時をかける少女」の実写版を新・旧作を観た。2つの大きな違いは、旧作は尾道が舞台で、新作は世田谷であることと、新作は旧作の主人公が母になり高校生の娘がいるという想定で、現在の物語として製作されていることである。

新作では、1975年の世田谷に娘がタイムリープ(時間移動)し、高校生だった母と、大学生だった父に出会う。当時の様子が再現されているのを見て、思わず私は映画の中にタイムリープしたような錯覚に陥った。現地在当時大学生であった私の生活の場だったから、時の流れの速さと世の中の変化の激しさを痛感した。

『町史』で私が担当するのは、1945年から現在までの現代編。歴史的な視点だ

本町の将来を描く計画書「甲佐町総合計画」



甲佐の歴史を紡いで

～町史編さんだより(29)～

甲佐町変貌史をタイムリープして書く

町史編集委員 鈴木康夫 (現代)

けでなく、地誌的な視点を加えて書き始めています。地域変貌誌として町の変わり様をリアルに描くことを目標としています。当然そこでは、町に暮らし地域を見つめてきた人々の視点や証言が必要になります。『町史』は、やがてこの地に生まれ地域を創る次世代への

タイムカプセルになるはず。タイムカプセルに何を詰めこむべきか。事例を2つ紹介しよう。小学生用の社会科学副読本『わたしたちの甲佐町』がその1つ。初版は1973年で、当時の商店街の賑わいやあゆ祭りの様子が描かれています。もう1つは『町総合計画』。20

01年の第5次では、10年後に人口12万5000人になるとの将来フレームが設定されています。10年経過した現在、人口は11万5000人です。

現代は激変の時代。1960年代の町内の様子や暮らしぶりを、その時代に時間移動してみる観点で書いてみれば、きつと今まで見えていなかったことが見えてくるかもしれません。冷蔵庫や洗濯機がなく、薪で風呂を炊いていた時代の暮らしは少々不便ではあっても決して不幸せではなかったことを、次世代へのメッセージとして残せたら物書きとしての私の役目は果たせるのではと考えています。

▼『甲佐町史』編さんに関するお問い合わせ先
町社会教育課町史編集係
☎096・234・3310

編集後記

さつきまで元気に遊んでいた子どもを抱っこすると、「あら？、ホカホカしてる？」という経験が、小さい子どもがいる家庭ではよくあることです。今すぐ診察するほどではないけど、明日は保育園には預けられそうにない。だけど、仕事は休めないし…。明朝には治まるだろうかと洗いや顔になり、ついついイライラした気持ちで子どもと向き合ってしまうことも。

急な病気がかかって不安を抱える親子をサポートするために、病児保育室が開設されました。より多くの皆さんが利用しやすいように、一般的な利用料が2,000円のところを、半額の1,000円と設定されています。

もしものときも、親子で優しい気持ちで過ごせるために、まずは施設利用の事前登録をして、病児保育室があることの安心感を想像してみませんか。(と)